

令和3年度学校自己評価システムシート (滑川町立宮前小学校)

目指す学校像	「やった!できた!みてみて!」の声があふれる学校
--------	--------------------------

重点目標	1 学力の向上、体力の向上 2 豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立 3 開かれた学校づくり (応援したくなる学校づくり) 4 教育の質の向上を図る働き方改革
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 4名 事務局(教職員) 3名
-----	-------------------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							
年度目標				年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策(◎重点)	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	○授業規律や学習意欲・態度については概ね良好である。 ○各種学力調査結果の活用を活用した授業改善サイクルが機能している。 ● <u>タブレットPCが配備された。</u> ○ <u>新型コロナウイルス感染症対策をした教育課程を編成し、子供の学びと心を守ることが重要である。</u> ● <u>コロナ禍で運動や体をつかった遊びの機会の減少による体力の低下、体の使い方の不慣れさの懸念がある。</u> ○特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を実践し、体育的学力を向上させる。	学力の向上 体力の向上	◎感染症対策に万全を期して、教育活動を推進する。 ○主体的対話的で深い学びを目指した授業づくりを推進する。 ◎ <u>タブレットPCを活用した授業を積極的に行い、実践を重ねる。</u> ○「家庭学習のすすめ」「ターナちゃんノート」を活用し、家庭学習の充実を実現する。 ○特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を創造する。	○学校評価に係る保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し9割以上が好意的な評価したか。 ○ <u>タブレットPCを活用した効果的な実践事例を整理することができたか。</u> ○ <u>体育授業において子どもたちが挑戦する回数・挑戦する時間の保障に向けた取り組みを共有したか。</u>	○学校行事の変更を行うことがあったが、遅滞なく教育課程を実施することができた。 ○タブレットPCを積極的に使用した実践を重ね、主体的対話的で深い学びに向けた授業づくりを進めた。 ○「読書名人」の取組を継続し、各便りに「本の紹介」コーナーを設け、読書活動の推進に努めた。 ○学力4項目アンケートの平均で85.0%の保護者から好意的な評価を得た。 ○体育授業で、子供たちが課題に挑戦する回数・時間の改善に成果が見られた。	B	○各種学力調査の活用による授業改善サイクルを確立した。継続して評価改善を続ける必要がある。 ○タブレットPCを活用した授業改善をさらに進め、実践の蓄積を全教職員で共有していく。 ○本年度は、2回の授業参観を実施できた。
2	○ <u>新型コロナウイルス感染症対策に起因する子どものストレスに留意して教育活動を推進する必要がある。</u> ○自己有用感の育成、傾聴の指導は、 <u>成果が継続されている。</u> ● <u>校外でのあいさつ、丁寧な言葉遣いに課題がある。</u> ● <u>自己有用感の育成、傾聴の指導を継続する。</u> ● <u>ケース会議等、校内の連携充実を図るとともに関係諸機関の連携を一層強化する必要がある。</u>	豊かな心の育成 基本的な生活習慣の確立	○家庭訪問、電話連絡、相談日等により、児童の心情と学習・生活の状況を把握し、よさを認め、励ます。 ○自己有用感の育成、傾聴の指導の連鎖を実現する。 ○研修により課題のある児童に対する指導力の向上を実現する。 ◎ <u>校内ケース会議の実施による校内支援体制と指導方略の構築を図る。</u> ○教育委員会、健康福祉課、保健センター、嵐山学園、民生委員等関係諸機関との連携を強化する。	○児童、保護者対象のアンケートで、基本的な生活習慣の確立に関し9割以上が好意的に評価したか。 ○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認められたか。 ○ <u>校内支援体制の充実と関係諸機関との連携により、課題を解決したか。</u>	○コロナの影響を受けての心身の健康不安は解消した。また、恐れ不安に起因するいじめ等はない。 ○アンケートでは78%の保護者、92%の児童から好意的な評価を得た。 ○教職員の学校経営方針自己評価では目指す児童像の育成について3.5(4点満点)であった。 ○校内ケース会議を適宜開催した。 ○関係諸機関との積極的な連携により、解決には至っていない案件についても、課題解決に向けてのプロセスが進行している。	A	○自己有用感、傾聴をキーワードとした指導・支援を継続してきた。少しずつだが着実に成果が上がっている。今後も目標の連鎖を意識し全職員が指導を継続する必要がある。 ○関係諸機関へ職員が出向いたり、来校いただいて直接児童を見ていただいたり、機敏に対応できた。これを継続していく。
3	○「開かれた学校」について好意的な評価を継続して得ている。 ○見守り活動、奉仕作業、資源回収など保護者・地域の方から多くの支援をいただいている。 ● <u>学校運営について理解を求め、保護者、地域社会、関係諸機関からの応援を活かす。</u>	開かれた学校づくり (応援したくなる学校づくり)	◎学校の方針を丁寧に説明する。 ◎スピード感のある対応を徹底する。 ○保護者や地域住民の意見や不安に自分の言葉で応え、丁寧に説明し、合意形成を図る。 ○家庭訪問、電話連絡、相談日等により、児童の心情と学習・生活の状況を把握し、よさを認め、励ます。(再掲) ○関係諸機関と連携し、要保護児童等の課題や懸案事項を解決する。 ◎教職員に「学校が地域のランドマークとなる」ことの意識付けを図る。	○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、9割以上が好意的に評価したか。	○新型コロナの影響を受けて、全校遠足の中止、宿泊学習の延期等の対応となったが、苦情等はなかった。 ○登下校指導等、保護者や地域の方の支援がひろがった。 ○アンケートでは87%から好意的な評価を得た。 ○教職員の学校経営方針自己評価では連携について、3.2(4点満点)であった。	A	○授業参観は実施できたが、地域の方に公開する機会が実施できなかった。 ○ボランティアの活動は可能な限り実施できた。継続していく。 ○OPTAと「(仮称)おやじの会」による奉仕作業を3回実施していただいた。さらに応援の輪を広げていきたい。
4	○勤怠ソフトにより、出勤退勤時刻を把握し、タイムマネジメントの意識が出てきている。 ○SSS(スクールサポートスタッフ)の活用を推進している。 ● <u>県費負担教職員の超過勤務時間が過労死ラインを超えている職員も多い。</u> ● <u>全教職員で知恵を出し合い、業務改善を図る必要がある。</u> ● <u>教育の質の維持・向上のための「働き方改革」を意識し、行事の精選や教職員の意識改革を進める。</u> ● <u>保護者や地域の方へも取組の理解を得られるようにする。</u>	教育の質の向上を図る 働き方改革	○持ち帰り残業を含めた勤務実態の把握を正確に行う。 ◎ <u>保護者・地域への説明を丁寧に言う。</u> ◎ <u>カエル会議を定期的に開催し、職員の意見やアイデアを改善活動に反映させる。</u> ○行事の精選を大胆に進める。	○超過勤務時間を文部科学省上限ガイドライン(45h/m, 360h/y)以内に収めたか。 ○教育の質を維持向上できたか。	○時間外勤務時間は減少した。 ○SSSTの積極的な活用により、教員の業務量の減少だけでなく、すべての教職員で全児童を見届けていく雰囲気醸成にも効果をあげている。 ○授業研究の充実、初任者研修等年次研修での授業公開の積極的な参観から実践につなげ、「意図の明確な教師行動」の質が向上している。	B	○効率化や優先順位等、「働き方」に関してほとんどの職員の意識に変化が見られ、行動変容がみられ始めている。 ○働き方改革の目的は、児童と職員の達成感や幸福感にあることに加え、教職員自身のキャリア形成の手段の一つであることの視点で改革を継続していく。

学校関係者評価
実施日 令和4年2月17日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>○落ち着いた学習に取り組み、学力の向上が図られている。児童が先生に注目して集中して話を聞いたり答えたりしている姿がとても印象的だった。</p> <p>○タブレットPCを使った授業では、子どもたちは興味を持って嬉々として取り組み、効果を挙げているようだ。タブレットPCの導入によって、指導方法にとっても幅ができてきているように感じた。多くの可能性を秘めているので、今後、どの場面でどう生かすか、さらなる研究が望まれる。</p> <p>○タブレットPCによって、児童が扱う学習量、情報量が膨大にならないか、一抹の不安を感じる。</p> <p>○児童が30人以上いる中で一人一人に寄り添うのは難しいと思うが、児童の反応をしっかり見るゆとりがほしいと感じた。</p> <p>○学校行事を工夫しながら中止せずにやってきたことは結果的に良かったと思う。</p> <p>○子どもの能力を引き出し、伸ばし、育てていくには、教師の力が大いに大切である。子どもたちの気づき、発想を適確にとらえ、良さを認め、伸ばし、自信をもたせることが、学習以外の生活、心の育成にも良い影響を与え伸ばすことになると考える。</p> <p>○校外での挨拶ができていない児童は3割程度である。不審者情報が絶えないが、通学路沿いにお住まいの方々には進んで元気に挨拶をすべきかと思う。挨拶が行き交う地域は防犯につながるものとする。</p> <p>○自立して生活ができる人間に育てるため、家庭と学校と地域が上手につながり、子どもたちを育てていけると良い。</p> <p>○コロナ禍の中の学校生活で、心身の健康不安やいじめ等が起こらないよう、今後も継続して関係機関との連携をとって、正確な情報を得るようにしたい。</p> <p>○保護者は自分の子どもから得る情報だけで判断する傾向にある。児童の様子や学校の考え方等の情報について、管理職がこまめに発信していく必要がある。</p> <p>○業務の効率化、改善は、教育現場のみならずどの職業にもあてはまると思う。</p> <p>○教職員も自分の時間を大切にし、上手にリフレッシュし、魅力的な教職員でいてほしい。</p> <p>○仕事にめりはりをつけ、時間を生み出すようにしていきたい。</p> <p>○「教育は人なり」と言われる。先生方の熱意とご苦労に感謝を表しつつ、宮小の子どもたちの健全育成に更なる御尽力をお願いする。</p>